

議 事 録 (案)

第 1 回ナットの機械的性質 JIS 改正原案作成委員会

1.日 時 平成 25 年 8 月 5 日 (月) 14 : 00～17:00

2.場 所 機械振興会館 6 階 62 号室

3.出席者 (順不同, 敬称略)

氏 名	所 属	氏 名	所 属
熊 倉 進	元神奈川大学(委員長)	今 西 崇 之	日本ねじ商連(今西工業所)
山 岸 章	サトーラシ(幹事)	早 川 智 晃	浅川製作所
大 橋 宣 俊	元湘南工科大学	大 磯 義 和	ねじ研(事務局)
根 本 俊 雄	元東京大学		
来 住 健	いすゞ自動車		
吉 田 孝 一	日本電機工業会		

4.配布資料

- No. 1 実施計画(案)
- 2 委員会名簿
 - 3 JIS B 1052-2:2009
 - 4 JIS B 1052-6:2009
 - 5 ISO 898-2:2012
 - 6 ISO 898-2:1992
 - 7 ISO 898-6:1994
 - 8 B 1052-2 目次
 - 9 鋼製ナットの機械的性質に関する ISO 規格改正の技術的背景と今後の動向

5.議 事

5.1 委員長・幹事の互選 出席各委員の自己紹介の後、委員長に熊倉委員(元神奈川大学)を、幹事に山岸委員(サトーラシ)を選出した。

5.2 実施計画の説明

事務局から、実施計画案の説明があり、次の意見があった。

- a) 大橋委員から、機械的性質関連 JIS の改正が現在同時に行われているので全体の動向を把握するためにも、委員長はできるだけ全ての委員会に出席するとよいと述べられ、また、ナットの JIS の変遷について、昔は一規格で 1 部が並目ねじ、2 部が細目ねじ、3 部が JIS 独自の T 付きの機械的性質となっていたが、2009 年の改正で並目ねじを B 1052-2 に、細目ねじを B 1052-6 として ISO 規格に整合させた規格体系に改め、3 部の T 付きは削除して B 1181 の六角ナットの附属書に移行し、それぞれの製品規格で T 付きを規定するようにしたものと説明があった。
- b) 根本委員から、並目ねじの 2 部と細目ねじの 6 部が ISO 投票の最終段階で一規格に合体されたと説明があった。
- c) 熊倉委員長から、資料 9 の ISO 規格の統合の経緯については萩原委員から次回説明してもらおう、改正 1 次案は 8 月中にまとめて委員に配付したいと発言があった。

5.3 改正箇所のポイント

山岸幹事から、資料 8 により ISO 規格の改正点の説明があり、次の意見があった。

- a) 規格名称は、締結用部品の機械的性質－第 2 部：強度区分を規定したナットー並目ねじ及び細目ねじとするのがよい。
 - b) ISO 規格のスキープの f) の 3 種類のナットのハイナット、レギュラーナットの訳し方、h) の外径と二面幅は六角に限定していない点を検討する。
 - c) ボルトにもある類似の用語は統一した訳とする。
 - d) スタイル 1 とスタイル 2 の保証荷重は高い方の数値を採用して同じであるが、硬さが異なることを理解しておく。フランジナットのように冷間加工で強度が出るので熱処理しないことがあるが、例外事項は製品規格で規定するようになる。
 - e) 硬さの測定方法が詳細になり、測定位置がこれまでと違うことに留意する。
 - f) ナットの設計原則をまとめた ISO/TR16224 を資料として配付する。
- 5.4 次回予定 次回は 10 月 10 日(木)、次々回は 12 月 4 日(水)とする。